

隆起性皮膚線維肉腫および類似疾患から検討する新たな診断手法の開発に関する研究

これまでに当院で隆起性皮膚線維肉腫と診断患者さん

研究協力をお願い

当科では「隆起性皮膚線維肉腫および類似疾患から検討する新たな診断手法の開発に関する研究」という研究を行います。この研究は、2023年12月31日までに日本医科大学武蔵小杉病院にて、隆起性皮膚線維肉腫の診断を受けられた患者さんでの腫瘍部の写真データを使用します。隆起性皮膚線維肉腫は臨床像（見た目）が良性疾患であるケロイドと酷似することがあり、診断や治療法が誤って施行される報告や症例があります。ケロイドの診断にはケロイド・肥厚性瘢痕評価分類表 Japan Scar Workshop Scar Scale (JSS) 2015 という評価方法が広く用いられますが、この評価方法を修正し隆起性皮膚線維肉腫と鑑別をする新たな診断方法を作成したいと考えております。研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：隆起性皮膚線維肉腫および類似疾患から検討する新たな診断手法の開発に関する研究

研究期間：病院長の実施許可日 ～ 2025年9月30日

研究責任者：日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科 桑原大彰

(2) 研究の意義、目的について

隆起性皮膚線維肉腫(dermatofibrosarcoma protuberans: DFSP)は皮膚真皮に発生し高い再発性を特徴とし稀にリンパ節や肺転移などを認め得る（中間腫瘍）悪性腫瘍です。一部組織を採取する生検によって診断した上で根治術を施行します。一方でケロイドも皮膚真皮に発生しDFSPと臨床所見が非常に酷似することがある良性疾患です。しかしケロイドは生検が一般に禁忌であるばかりでなく悪性腫瘍に対しては使用が憚られるステロイド治療が第一選択になる疾患です。臨床両疾患を鑑別することが困難で適切な診断や治療がなされない患者さんがいるという報告や紹介を受けることがあります。隆起性皮膚線維肉腫の患者さん並びにケロイド患者さんに対する適切な治療を提供するため外来診療でも用いることのできるような簡易な鑑別方法の作成が急務であると考え以下の研究を立案しました。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2023年12月31日までに日本医科大学武蔵小杉病院にて隆起性皮膚線維肉腫と診断された患者さんの病変部の症例写真を用います。臨床写真を画像処理ソフトウェア ImageJ® を用いて腫瘍の長軸を算出（自動算定で計算され、人為的なバイアスを除く）し、ケロイド拡大方向Tと腫瘍の長軸Aの角度差 θ ($0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$) を測定、新たな評価式 $JSS \times \cos \theta$ の値を求めJSS診断に用いる新たな診断のための点数として算出します。1変量t test検定にて統計解析を行い、新たに算出された点数がケロイドの診断を外れることで臨床写真からケロイドかそれ以外の疾患であるかの鑑別を行うことができると考えております。

この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：症例写真データ

情報：年齢、性別、病理診断等

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学武蔵小杉病院 形成外科科 准教授 桑原大彰

〒211-8533 神奈川県川崎市中原区小杉町 1-396

電話番号：044-733-5181（代表） 内線：3290

メールアドレス：hiroaki-pc@nms.ac.jp